《様式1》

（平成３０年8月２９日地域産業振興課）

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号：6　事業名：ジュエリーミュージアム事業費

アドバイザー	質　問　内　容	説明者職・氏名	回　答　内　容
小澤アドバイザー	・事業の目的が専門学校生、県民であり、地場産業を推奨し、宝飾の加工が出来る方を輩出することが目的であるが、専門学校生だけでなく一般県民に見てもらうことが大事。甲府の県庁の中にあることすら知らない方がいる。 ・ミュージアムは、中心市街地の経済の発展にも寄与しているが、山梨県民に対し、地場産業として水晶が山梨で取れ、宝飾の加工職人が大勢いることを知ってもらうことが大事。情報発信の仕方に工夫が必要。 ・県庁という一般県民が少し近寄り難いところにある。展示物も高価なものが多く、一般者には高価過ぎて、ついていけない感じがある。 ・山梨県では高額なものを扱い、加工が専門と捉えているが、加工が販売ルートにつながるようなPRや、ショーウィンドウの展示の仕方についても工夫があってもよい。	事務局長　中野修	・開館から5年が経ち、入館者数も毎年増えている。資料１０にあるように様々な媒体を使い、広報を行っているが、ミュージアムを知らない人がいるのは確か。 ・今後、情報発信を行い、ミュージアムが甲府にあるということと、展示品について更に広報をしていく。 ・展示している素晴らしい作品は、結果的に高額なものとなってしまうが、身近なものを展示すれば、違った方々も訪れてくれるのではないか。 どういう展示が出来るのか、どういう広報が出来るのかについては、今後の課題として、努力していく。

アドバイザー	質　問　内　容	説明者職･氏名	回　答　内　容
小澤アドバイザー	･県庁の敷地という一等地にあるので、展示物の内容を吟味し、ミュージアムとして皆様にもっと知ってもらうことが大事。		
村上アドバイザー	･宝石学校には体験できる場所はあるか。	事務局長　中野修	･授業で加工や研磨をするので、授業で使う設備はある。また、入口ホールには展示コーナーもあり一般の方も見られるようなフロアになっている。
村上アドバイザー	･今後、更に宝石学校の附属施設としての活用方法を検討していくということであるが、どのようなことがあるのか。	事務局長　中野修	･ミュージアムには一流の作品が展示されているので、デザイン等のスキルアップに役立つことは当然であるが、一流の職人が実際にいるので、見たり話を聞いたりし、自分のものにしていくということもある。 更に、今後の検討課題ではあるが、ミュージアムの一部のコーナーを学生の展示用にするなど、学生の発表の場としての活用も行っていきたい。
村上アドバイザー	･体験工房は（土）（日）だけだが、職人の体験が一番記憶に残る。平日にやってほしいという声はあるのか。	事務局長　中野修	･問合せはある。
村上アドバイザー	･それは可能か。	事務局長　中野修	･職人のスケジュールの問題もあり、調整が必要。
村上アドバイザー	･事業費と運営費に分けているが、主に運営は人件費と思うが、具体的に事業費と運営費の分け方は決められているのか。	総括課長補佐 河野公紀	･運営費については施設の一般管理、維持等に要する経費となっており、事業費については展示、体験事業に係る経費が主なものになる。
村上アドバイザー	･体験と展示が事業であり、運営が一般ということですね。		

アドバイザー	質　問　内　容	説明者職･氏名	回　答　内　容
小口アドバイザー	･宝飾業界は人出不足感が強く、宝石美術専門学校に対する期待が高い。 ･資料１１で今年から「輝きの伝承講座」が開催されているが、通常の加工の授業とどこがちがうのか。	事務局長　中野修	･学校の場合は本校の教員が教えているが、「輝きの伝承講座」の場合は、職人に学校に来てもらい伝統技術を教えてもらっている。
小口アドバイザー	･より高度な技であり、学生にとってはありがたい話。今までどうして行わなかったのかと資料を見て思っている。今年度は3コースであるが、対象人数は。	事務局長　中野修	･募集は15名程度。ペンダント13名、リング14名、ブローチ15名が参加。3コースを同じ学生が受講しているケースもあり、延べ人数になる。
小口アドバイザー	･今、3年制のようだが、どの学年でも受講できるのか。	事務局長　中野修	･技術が違うが、募集は全学年行っており、1年生も受けている。
小口アドバイザー	･できれば必修に近いかたちで行ってもよいような授業であるので、是非継続して行っていただきたい。		
	･「高度技術専門コース」の「夜間講座」であるが、学生ではなくジュエリー業界にいる社員も対象か。	事務局長　中野修	･本校を卒業した方だけでなく、ジュエリー業界の方も含めて、技術アップを目指している。
小口アドバイザー	･３０年度は１１講座であるが、何人くらいが対象か。	事務局長　中野修	･使う設備の数の制約もあり、講座によって違う。実際行ったのは、６名、１０名、多い講座で２０名。

アドバイザー	質　問　内　容	説明者職･氏名	回　答　内　容
小口アドバイザー	･全体の単純合計で何人か。例えば平成２９年度は全体で何人か。	事務局長　中野修	･平成２９年度は9講座で６７名が参加している。
小口アドバイザー	･増えているのか。	事務局長　中野修	･微増
小口アドバイザー	･資料に職人の派遣とあるが、職人の単価はどういう場合の単価か。	総括課長補佐 河野公紀	･ミュージアムでの実演、体験の単価。
小口アドバイザー	･特別講座である「輝きの伝承講座」の場合は、もう少し単価が高いのか。 ･単価はどのくらいなのか。	事務局長　中野修	･時給４，２００円。
小口アドバイザー	･特別講座をされる方は、３３人の中でも、それなりに高い資格を持っているのか。	事務局長　中野修	･今年２名にお願いしたが、２人ともジュエリーマスターの資格を持っている。
小口アドバイザー	･１日５，０００円というのは、あまりにも安い。技術というものに対する評価を考えると、もっと職人に敬意を払う単価であるべきと考える。 ･職人に対する敬意が必要。気持ちよく出ていただくにはそれなりの対価は必要。		

アドバイザー	質　問　内　容	説明者職･氏名	回　答　内　容
小口アドバイザー	･ショップの売上が上がってきており、一千万円である。出品者に還元されているとは思うが、場所を借りているという意味で、組合に残される金額はあるのか。	事務局長　中野修	･ショップについては、県が組合にショップの事業を委託し、組合が場所、光熱費等の賃料を県に支払っている。売上については、組合がかいてらすに委託をしているので、組合とかいてらすの話になり、県は関与していない。
小口アドバイザー	･県では売上によって賃料は変わらないため、売れば売るほど組合に残る金額は多くなる。例えば、そういうものを使って職人の単価を上げるなど、県から話をした方がよいのでは。	事務局長　中野修	･組合に話をしておく。
小口アドバイザー	･学校も結構来ているが、南アルプスや北杜が多く来ている。どういう理由かわかるか。甲府が多いのは地元なので分かるが。	事務局長　中野修	･おそらく、距離的な問題で気軽に来られることもあるのでは。
小口アドバイザー	･　甲斐市に比べて北杜が多いという状況がある。授業の一環として来てくれているということか。例えば、同じ北杜であれば、来てくれる学校と来てくれない学校があり、どのような順番になっているか。仕組みを聞きたい。	総括課長補佐 河野公紀	･学校の事情については把握していない。課外授業として組み込んでいただいているところ、教室の1クラスの人数や小回りのきく学校など、規模の関係もあるかもしれない。今後分析し、より多くの学校に来てもらえるよう精査したい。
小口アドバイザー	･学校に来てもらい、興味を持ってもらって、出来ればこういう分野の仕事に就いてもらいたいということで、分析し、積極的に働きかけ、事業に組み込めれば、本来の目的に合ってくるのではないかと考える。		

アドバイザー	質　問　内　容	説明者職･氏名	回　答　内　容
小口アドバイザー	･今、専門学校には定員に対してどのくらいの応募があるか。	事務局長　中野修	･定員は35名。今年の場合は、推薦と一般があり41名が志願、合格者は36名だが、1名辞退により35名入学。
小口アドバイザー	･留学生が含まれているが、定期的か。	事務局長　中野修	･現在、2年生に2人いる。毎年ではないが、韓国とか中国などから来る。
小口アドバイザー	･県外の学生が結構いるが、どのようにして学校を知るのか。	事務局長　中野修	･学校案内や応募要項などを県外の工業高校、美術系の高校など　ジュエリーに関係するところに案内を発送したり、オープンスクールにも来てもらっている。
小口アドバイザー	･県外の出身者で県内で働いてくれる方、県内の出身者で県外へ出てしまう方、差し引くとプラスになっているので、山梨県の発展につながっているということだと思う。		
	･これから宝石美術専門学校として生徒に特に必要なスキルは何だと思うか。業界から求められていることは。	事務局長　中野修	･やはり業界からは即戦力が求められている。学校で高度な技術を習得してもらいたいという要望を受け、平成27年度から2年制から3年制へ移行したところ。今年3月にようやく1期生が卒業した。 ･今後は、高度な技術力を有する者が欲しいのか、幅広い分野について能力を有する者が欲しいのか、あるいは、一点で深く専門性を追求した者が良いのか、業界がどのような人材を求めているのか、組合と話し合いながら、学校の方向性を決めて行きたい。
小口アドバイザー	･まさにそのとおり。その中でこのミュージアムをどのように使っていくかが大事。		

アドバイザー	質　問　内　容	説明者職･氏名	回　答　内　容
小口アドバイザー	･デザインを学んでいて、就職したが、デザインなどが向かない学生も必ずいると思うが学校はどのように対応しているのか。	事務局長　中野修	･就職してから合わないということを防ぐために、2年生でインターンシップを行っている。2週間という長い期間をかけ、営業か、デザインか、製作か、今後の自分の進む道について考える。 今、インターンシップに力を入れている。